

「第37期はなやまボランティアスクール」

1. 趣旨

ボランティア活動に必要な理論と技術についての実践的な研修を行うとともに体験活動の指導者や支援者としての技術とボランティア活動に積極的に取り組む意欲を高める。

2. 事業の概要

(1) 期日 平成28年5月28日(土)～5月29日(日)〔1泊2日〕

(2) 参加者

①参加対象 高校生以上のボランティア活動を志す方(一般成人・学生・高校生) 30名

②参加人数 50名(男21名 女29名)

【参加者の所属先】

- ・東北生活文化大学高等学校 ・宮城県石巻西高等学校 ・宮城県工業高等学校
- ・東北福祉大学 ・東北学院大学 ・尚絅学院大学 ・宮城学院女子大学
- ・宮城誠真短期大学 ・仙台高等専門学校名取キャンパス ・仙台子ども専門学校

3. 企画運営のポイント

- ①ボランティアへの理解を促し、活動するボランティアを増やすため、講義の一部を利用した広報活動などで、高等学校や短期大学、大学等へ参加を積極的に呼びかけた。
- ②座席の工夫、野外炊事の内容の工夫など、参加者同士の関係性が深まるようなプログラム構成と、指導、指示の場面で先輩ボランティアを活用し、先輩ボランティアと参加者を関わせることで縦のつながりを作るようにした。

4. 日程

	5月28日(土)	5月29日(日)
午前	受付 9:10 開講式 9:40 <説明Ⅰ> 9:50～10:50 「青少年教育施設におけるボランティア活動」 [担当] 国立花山青少年自然の家 企画指導専門職 島貫 織江 <講義Ⅰ> 11:00～12:30 「青少年教育」 [講師] 学習院大学文学部教育学科 教授 長沼 豊	朝のつどい 7:15～7:30 <講義・演習Ⅱ> 9:00～12:00 「普通救命講習Ⅰ」 [講師] 栗原市消防本部警防課警防課 職員 3名
午後	<講義Ⅱ> 13:30～15:00 「ボランティア活動の意義」 [講師] 学習院大学文学部教育学科 教授 長沼 豊 <講義Ⅲ> 15:10～16:10 「青少年教育施設の現状と運営」 [講師] 国立花山青少年自然の家 所長 松村 純子	<説明Ⅱ> 13:00～14:00 「登録制度について」 [担当] 国立花山青少年自然の家 事業推進係 庄子 佳吾 <閉講式> 14:20 「修了証授与」
夜	[講義・演習Ⅰ] 16:50～20:50 はなやまプログラム体験 「野外炊事～カレーコンテスト～」 [担当] 国立花山青少年自然の家 職員 先輩ボランティア	/

5. 主な活動内容



①講義Ⅰ「青少年教育」、講義Ⅱ「ボランティア活動の意義」（長沼 豊教授）



②講義Ⅲ「青少年教育施設の現状と運営」（松村所長）



③先輩ボランティアから説明を受けて野外炊事に挑戦する



④講義・演習Ⅱ「普通救命講習Ⅰ」で消防署員から説明を受ける

6. 成果と課題

(1) 参加者アンケート結果

満足：78.0% やや満足：22.0% やや不満：0% 不満：0%

(2) 参加者の声

- ・初めて会った人同士ペアを組んだのが交友を広げるのにとっても良いきっかけになった。
- ・ボランティア活動を行うにあたり大切なことを学ばせてもらうことができた。
- ・この事業を通して人と人との繋がりや経験したことのないことを経験できた。

(3) 成果

- ①演習場面では子どもとの活動を想定しながら取り組み、野外炊事や普通救命法講習を通して、自然体験活動の指導方法や安全管理についてボランティアとして生かせる知識や技術を習得することができた。
- ②参加者同士もしくは参加者と先輩ボランティアとが関わる場面を多く作ることで、人間関係を深めることができた。多くの参加者が研修終了後に本施設でボランティアとして活動したいと希望した。

(4) 課題

- ①「講義」では講話が中心となる場面が多く、高校生にはわかりづらいものもあった。参加者の年齢構成を踏まえて、ところどころ動きのある活動を入れてもらうことなど、より綿密に打合せを行うことが必要である。
- ②今回の参加者50人がより多く事業へ参加してくれるように働きかけるとともに、ボランティアが活動できる場の設定をしていく。
- ③広報活動により、多くの参加者を得ることができたが、宮城教育大学他、より様々な学校から参加者が集まるように工夫していく。

担当：企画指導専門職 奥山 洋